2013年度　第３回理事会(8/7)だより

1. 7月期決算について承認しました。

《7月度事業結果》　（単位：百万円）

	7月実績	計画比(%)	累計実績	計画比(%)
商品の供給高	2,078	97.0	8,366	96.9
総事業高	2,149	97.0	8,636	97.0
事業経費	467	97.9	1,878	97.0
経常剰余金	6	51.7	34	149.5

組合員数　218,672名　　計画比　99.8%(加入760名)
出資金　38億7,578万円　　一人当たり出資金　17,724円

2. 第15期総代の選出に向けて今後のすすめ方について確認されました。

3. 事業関連事項
(1)芥見店のドライグロッサリー売場を改修し、品揃えの充実、買い物しやすい売場にすることが確認されました。
(2)電話注文センターの夜間電話が繋がりにくい状態を解消するため、設備を増設し改善することが確認されました。

4.組織・組合員活動関連事項
(1)ホームページのスマートフォン対応をすることが確認されました。
(2)地域との共同として、「大垣市のあんしん見守りネットワーク事業」に協力することが確認されました。

Report 商品安全検査センター

東海コープ商品安全検査センターとは…

東海３県の３生協で「東海コープ」を作り、商品を共同仕入しています。東海コープは、メーカーさんや農家さんと、書類で約束を交わします。その約束が守られているか点検するのが、商品安全検査センターの役割です。

東海コープ商品安全検査センター

冬のウイルス食中毒を予防しよう！

気温の高い夏が終わると、だんだんと食中毒への警戒が和らいでくるかと思います。ですが、近年冬でもウイルスなどによる食中毒が発生し、しかも大規模なものが多くなっています。そのために、まずは予防に努めましょう。ウイルス病予防に一番大切なのは「手洗い」です。特にトイレに行った後、ご飯を作る前、食べる前はしっかり手洗いをしましょう。また、ご家庭で誰か1人がノロウイルスなどに感染してしまうと、他の家族も感染する確立が高くなります。嘔吐物などの処理が不十分だと、家族全員が感染してしまいます。そこで、今回は家族内での感染拡大を防ぐために、嘔吐物の処理方法などについてお伝えします。いざ、というときにお役立てください。

◎吐物の処理手順

- 室内の換気をする(窓を開ける)
- マスクや手袋を着用し、ウイルスが飛び散らないようにペーパータオル等で静かに拭き取る。
- 拭き取った後は、塩素濃度約200ppm次亜塩素酸ナトリウムで浸すように床を拭き取り、その後水拭きをする。
- 拭き取りに使用した手袋、ペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄する。（ビニール袋に塩素濃度約1,000ppm次亜塩素酸ナトリウムを入れることが望ましい）
- 嘔吐した本人の着用していた服については、８５℃で１分間以上の熱水洗濯を行う、もしくは洗剤を入れた水の中でウイルスが飛び散らないように静かにもみ洗いし、有機物を取り除いた後、次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度200ppm）の消毒が有効（十分すすぎ、高温の乾燥機などを使用すると殺菌効果が高まる。また、もみ洗いした石けん液には次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度1000ppm以上）を加えて、１０分間以上置いたのち、捨てること。）。お布団などすぐに洗濯できない場合は、屋外で、日光に当ててよく乾燥させ、スチームアイロンや布団乾燥機を使うと効果的。

次亜塩素酸ナトリウム消毒液（塩素濃度200ppm）の作り方

市販の漂白剤（塩素濃度約５％）を２５０倍希釈して作ることができます（例：5Lの水に漂白剤を２０ml入れる）。なお、アルコールは効果がなく、塩素系の漂白剤でなければ効果的な消毒はできません。漂白剤を使用する際は、使用方法を守り、塩素系のものと酸素系のものを混ぜたり、熱湯で使わないよう気をつけてください。

以上は食品安全委員会ホームページ参照

ノロウイルスなどの流行が始まる季節です。一番は予防ですが、家庭でもし感染性胃腸炎の疑われる症状の方がいた場合、嘔吐物を普通に片付けたりせずに、この記事を参考にして処理していただきたいと思います。

わたしのひとこと　料理コーナーは楽しみにしています。「ゴーヤの佃煮」（８月号）はシャキッとしたゴーヤがおいしくできました。私は小女子とクルミを追加しました。
（各務原市　平野さん）

3・11を忘れない・・みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

2年半前と変わらない景色がある

震災から2年半が経過し宮城県の災害廃棄物の処理は82％まで終了しました。しかし津波浸水域にはいまも壊れた家や岸壁、海水に浸かったままの田んぼが残ります。

応急仮設住宅で3度目の夏を迎えた方は9万6千人。県外への避難者8千4百人を加えると10万人が未だ仮の暮らしを余儀なくされています。

災害公営住宅は21市町で1万5千戸を建設する計画ですが、2年半を経過してもわずか102戸しか完成していません。被災した人たちが地域ごと移住する集団移転事業も、なかなか進んでいません。

漁業の再開率は震災前の約8割まで回復していますが、雇用の受け皿だった水産加工場の稼働率はまだ半分です。工場が再開されても、条件が整わずに就業に踏み切れないでいる人が多くいます。

さらに、沿岸部市町では人口流出が加速。女川町では居住人口が半分に減りました。内陸部の避難先で定住を決める人も多く、被災した自治体にとっては復興計画を左右する大きな課題になっています。

復旧・復興を妨げる問題が次々と起こり、計画がどんどん遅れていく。それが2年半を経過した被災地の現実です。

情報提供／みやぎ生協
※数字は宮城県・水産庁・総務省等の12年12月末から13年7月末のデータに基づく。

コープぎふでは、東日本大震災の復興支援に継続して取り組みます。

▲気仙沼市　震災4日後と2013年9月1日の同じ場所の光景。災害廃棄物はなくなったものの、一面、夏草が茂っている。

「モー暑に、まけないで！」

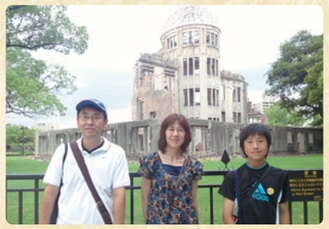
美濃酪連生産者を応援する励ましの寄せ書きをみんなでつくりました。（岐阜西エリア）

記録的な猛暑の中、乳牛も体調を崩し、生産者も大変なご苦労をしてみえることを伺いました。岐阜西エリアで開催されたデイキャンプに参加した組合員みんなで、応援メッセージの寄せ書きをつくり、9月いちの日企画で、美濃酪連さんへ託しました。

「生産者のみなさん、いつも美味しい牛乳をありがとうございます。残暑、豪雨、異常気象に負けず、頑張って下さい。」

核兵器のない平和な世界のために

8月4日～6日「2013 ピースアクション.inヒロシマ」、8月7日～9日「2013 ピースアクション.inナガサキ」に組合員さんが参加しました。



8月6日「被爆者の証言は胸にずしりと突き刺さりました。」

8月９日長崎平和公園
コープぎふから３つの千羽鶴を持参しました

わたしのひとこと　今年は定期検診で腹囲が 8.5 ｃｍも増えていてショック！どうやって戻そうかな？やっぱりおやつの食べすぎ？ストレス解消におやつは最適だったのに・・トホホ
（可児市　メタボ予備軍さん）